

Y
K

手懐けよ

芽吹き季節に
目の病を告げられるとは

春が容赦なく全身に覆いかぶさってくる
明るすぎるエネルギーに太刀打ちできない

手懐けよ。

木立をわたる風が鼻先をかすめたとき
耳元で声がした

手懐けよ、地に足をつけて。
振り返るとそこに風はもうない

手懐けるすべを得ようと
風の助言をきき、
大地をしかと踏みしめる
春の血液が足うらから流入するのを感じながら